朝美辻遺跡２次調査　発掘調査現地説明会資料

平成 24 年 9 月 22 日 (土)

公益財団法人　松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター

朝美辻遺跡2次調査は、民間の開発に伴い実施した埋蔵文化財の発掘調査です。調査では、主に古墳時代から古代の集落に関連する溝、柱穴、貯蔵穴と見られる土坑や掘立柱建物などの集落関連遺構が発見されました。現在はまだ調査途中で、今月末の終了予定です。

1.はじめに

朝美辻遺跡2次調査は、松山平野西部の大峰ヶ台丘陵の東裾部に立地しています。周辺では多くの調査が実施されており、大峰ヶ台丘陵では「大峰ヶ台遺跡1～10次調査」によって多くの古墳や弥生時代の高地性集落が見つかっています。また、調査地の北東120mには古墳時代後期の建築部材「蹴放し」が見つかった「朝美辻遺跡」などのほか、多くの集落関連遺跡が見つかっています。近隣では、約15m西に県埋蔵文化財センターによって「大峰ヶ台Ⅱ遺跡」が調査され、古墳時代後期の倉庫群が見つかっています。（蹴放しとは、建物の出入り口扉下の敷居のこと）

2.調査の概要

検出遺構: 溝17条（5世紀後半～7世紀はじめ）、土坑2基、掘立柱建物1棟（6世紀前半）、柱穴約100基（弥生時代～古墳時代）

出土遺物: 須恵器、土師器、石鏃など

3.調査でわかったこと

今回の調査では、西に隣接する「大峰ヶ台Ⅱ遺跡」に比べ小規模ですが、遺構の密度はやや高く、主に古墳時代～飛鳥時代の溝や柱穴、そして掘立柱建物の一部が見つかっています。

遺構の中でもたくさんの溝が17条も見つかり、丘陵斜面にそって走る溝や少数ですが短い曲線を描くような溝も見つかっています。どの溝も埋まった土には砂や礫などは見られないことから、長期間または常時水の流れがあった溝ではないようです。

溝から出土した遺物には、須恵器の坏身口縁部片や土師器の高坏の坏部片や脚部があり、概ね5世紀後半～7世紀前半（古墳時代中頃～飛鳥時代）の遺物が出土しています。

調査区の北部に掘立柱建物の一部が見つかっています。掘立1は南側の東西2間分で、約1.5m前後の柱間隔で3m程度あります。建物の北部分は不明ですが、おそらく北に延びるものと考えます。また、建物の柱穴（SP86）からは6世紀前半と思われる須恵器の坏身口縁端部片が見つかっています。

その他には、大小多数の柱穴が調査区全体で見つかっており、やや南部に多く見られます。この柱穴は約100基ほど見つかりましたが、建物として確認できるものは掘立1の1棟のみでした。

ほとんどの柱穴からは弥生土器や土師器、須恵器などの胴部小片がみつかり、これらの柱穴は古墳時代の柱穴と考えられます。ただし、弥生土器片が出土することから、調査地西の大峰ヶ台丘陵上には弥生時代の集落があったことがうかがわれます。

◎朝美辻遺跡２次

❶ 大峰ヶ台遺跡１次	❷ 大峰ヶ台遺跡２次	❸ 大峰ヶ台遺跡３次	❹ 大峰ヶ台遺跡４次
❺ 大峰ヶ台遺跡５次	❻ 大峰ヶ台遺跡６次	❼ 大峰ヶ台遺跡７次	❽ 大峰ヶ台遺跡８次
❾ 大峰ヶ台遺跡９次	❿ 大峰ヶ台遺跡 10 次	⓫ 辻遺跡５次	⓬ 南江戸桑田遺跡（市）
⓭ 辻町遺跡１次	⓮ 辻町遺跡２次	⓯ 辻町遺跡３次	⓰ 朝美辻遺跡
⓱ 朝美澤遺跡１次	⓲ 南江戸桑田遺跡	⓳ 辻遺跡	⓴ 大峰ヶ台Ⅱ遺跡（県埋文）
㉑ 朝美澤遺跡２次			

周辺の遺跡分布図

大峰ヶ台丘陵と朝美・辻町の遺跡

1	大峰ヶ台遺跡１次	弥生時代中期	12	南江戸桑田遺跡	近世
2	大峰ヶ台遺跡２次	古墳	13	辻町遺跡１次	弥生時代～中世
3	大峰ヶ台遺跡３次	古墳	14	辻町遺跡２次	古墳～中世
4	大峰ヶ台遺跡４次	弥生時代中期	15	辻町遺跡３次	弥生時代・古墳・鎌倉
5	大峰ヶ台遺跡５次	古墳	16	朝美辻遺跡	古墳・古代
6	大峰ヶ台遺跡６次	弥生時代中期～後期	17	朝美澤遺跡１次	弥生時代～中世
7	大峰ヶ台遺跡７次	古墳	18	南江戸桑田遺跡	近世
8	大峰ヶ台遺跡８次	古墳～中世	19	辻遺跡	古墳・中世・近世
9	大峰ヶ台遺跡９次	古墳	20	大峰ヶ台Ⅱ遺跡	古墳
10	大峰ヶ台遺跡10次	弥生時代～近世	21	朝美澤遺跡２次	弥生時代前期・古代～中世
11	辻遺跡５次	古墳			

今回の調査では、古墳時代中頃から飛鳥時代までの遺跡が見つかり、西に接する「大峰ヶ台Ⅱ遺跡」で見つかった遺跡が東側へ広がることを確認することが出来ました。

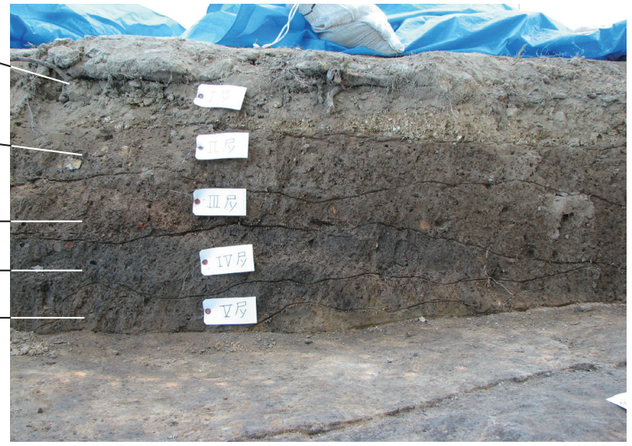
朝美辻遺跡2次調査と大峰ヶ台Ⅱ遺跡での遺構の分布を見ると、この遺跡の広がりは、南東にやや密度を増して広がっているようです。今回の調査では掘立柱建物は1棟のみで、倉庫群は調査地の北に展開する可能性があることが分かりました。

この地域では大峰ヶ台丘陵にある集落や辻町遺跡などの低地に立地する集落も存在することが分かっています。それらの遺跡のつながりや、時代を経てどのように移り変わっていったかなど、この朝美、辻町地域の成り立ちや遺跡の移り変わりの解明が今後の課題となります。

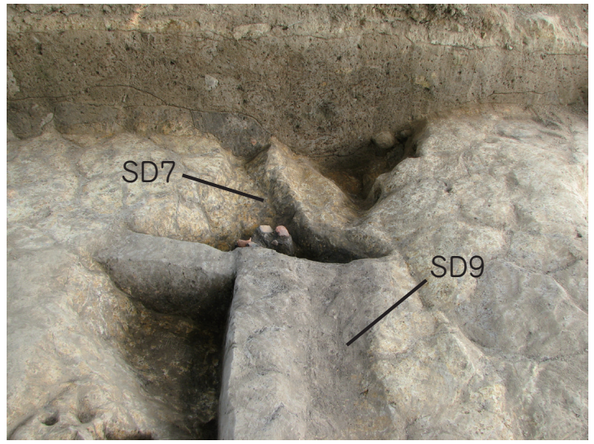
用語説明

＊図中の赤色番号は柱穴

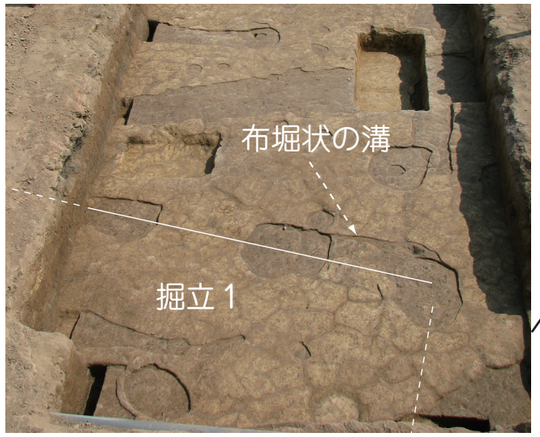
- 遺構（いこう）　建物の跡や古墳など人々の活動の跡
- 遺物（いぶつ）　活動で使われた土器・石器・木器など
- 遺跡（いせき）　遺構や遺物が見つかる場所
- 須恵器（すえき）　色調はねずみ色で摂氏 1100 度以上で焼かれた硬質の土器で、古墳時代から平安時代まで使われた
- 土師器（はじき）　色調は赤褐色・黄褐色などで、摂氏 800 度前後で焼かれる。古墳時代から奈良・平安時代にわたり長く使われた
- 石鏃（せきぞく）　石製の鏃。矢の先端に紐などで固定させて用いる
- ＳＤ　溝
- ＳＫ　土坑（ものを貯蔵する穴・ゴミ穴）
- 掘立　建物跡
- 柱穴（ちゅうけつ）　柱を建てるために掘られた穴
- 攪乱（かくらん）　近現代に人為的に掘られた穴



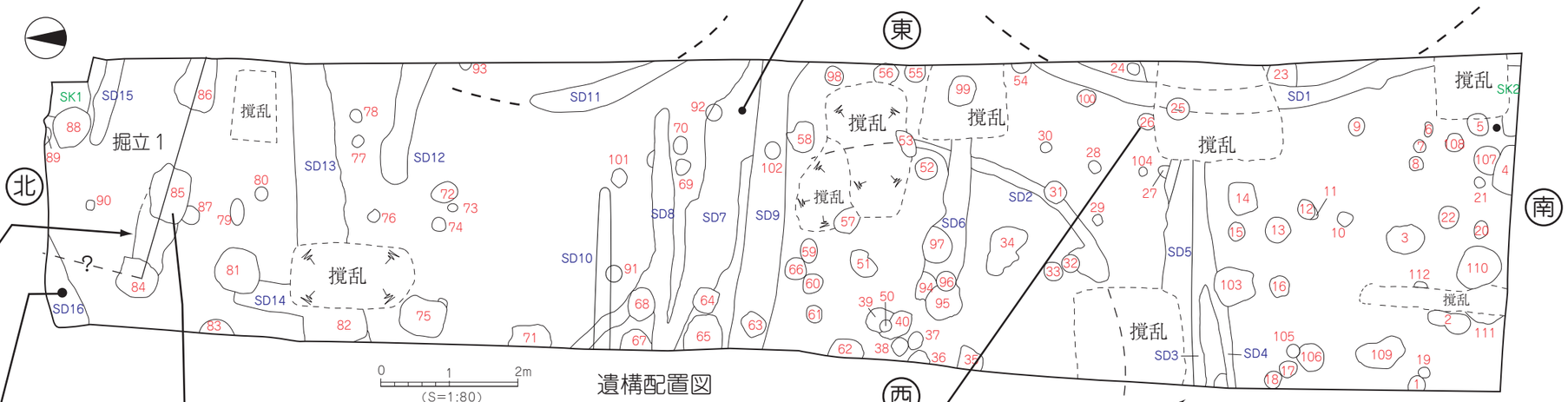
地層の堆積状況



SD(溝)7 から遺物が出土



掘立１検出状況
（布掘（ぬのぼ）り：地面に溝を掘り、その中に柱を立てた跡）

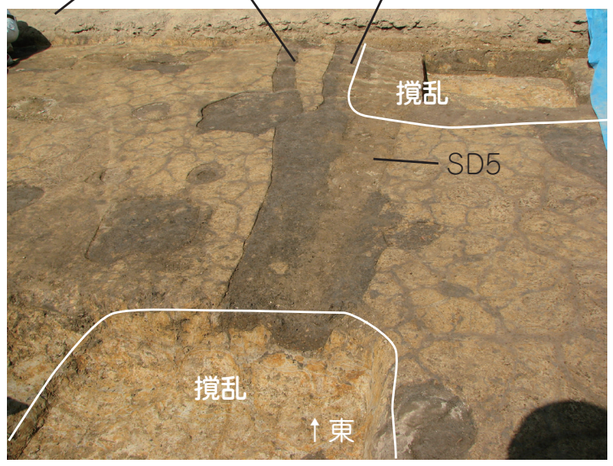


遺構配置図

ＳＤ１６遺物出土状況

掘立１の柱穴 85

根石（ねいし）が見つかった柱穴 26
（根固め用の石）



溝が見つかったときの様子
（SD３・４・５）